

## ● 室蘭線の歴史と日本遺産「炭鉄港」

室蘭線は令和4年に開業130年を迎えた歴史ある路線。石炭輸送を目的として、北海道炭<sup>たんこう</sup>礦鉄道が岩見沢駅—室蘭駅間を開業し、その後国有化されて現在の室蘭線となりました。

空知や夕張で産出した石炭の輸送を担い、活躍していた「D51 320号機」。道の駅あびら D51ステーション内で展示をされているこのSLは、昭和51年の追分機関区の火災で消失を逃れたSLです。

国鉄OBの方たちによって整備されていて保存状態が良く、歴史的価値が非常に高いと、令和元年5月20日に日本遺産「炭鉄港」の構成文化財として認定されました。

室蘭線の沿線各地には、同じく日本遺産「炭鉄港」の構成文化財に指定された文化財があり、見学などを行っているところも。室蘭線を利用し、構成文化財を巡ると、よりその価値を感じられることと思います。



## ● 「鉄道等利用促進活動費助成金事業」を活用しよう

この歴史ある路線を維持・存続するために、安平町をはじめ、沿線自治体でさまざまな取り組みが行われています。安平町で行っている取り組みの1つが「鉄道等利用促進活動費助成金事業」です。

令和2年度からスタートしたこの事業は、町内の団体が沼ノ端駅—岩見沢駅間の一部または全部の利用を含む行事で4名以上で利用する際、対象経費の10 / 10以内を助成するというもの。

今年度は新型コロナウイルス感染症が第5類に移行したこともあり、この助成金を利用して多くのグループがおでかけを楽しまれています。

令和5年10月、「早来かしわ会」は早来駅から岩見沢駅まで室蘭線を利用し、日本遺産「炭鉄港」について学ぶグループ旅行を開催しました（参加者26名）。大勢の仲間と一緒に旅ができ、移動中も素敵な時間になる、それが公共交通の旅です。

助成金を利用したグループ旅行を企画し、地域の皆さんで鉄道があるまち・暮らしを実感していただければと思います。

**※今年度は3月15日(金)が申請受付期限となっていますのでご注意ください（新年度は4月1日から申請受付開始）。**

鉄道等利用促進活動費助成金制度の詳細は、下記二次元バーコードからご確認ください。

